

施策No.	政策名	安全安心な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	佐谷 智
3-3	施策名	交通安全対策の推進	関係課	建設課、学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	交通安全を起こさず、交通事故にあわない環境が整っている。	・市民、市内の道路利用者(車両運転者・歩行者) ・市内道路	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	38,422.0	
②市内道路延長(国道、県道、市道)			km	見込値	1,638	1,639	1,640	1,641	1,642	
				実績値	1,623	1,623	1,631	1,632	1632	
					見込値					
					実績値					
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
		①市内の交通事故発生件数(人身)	件	目標値	120	120	120	120	120	
				実績値	98	80	73	44	51	
			②市内の交通事故死亡者数	人	目標値	0	0	0	0	0
					実績値	1	0	0	0	1
			③市内の交通事故負傷者数	人	目標値	145	145	145	145	145
	実績値				137	110	83	52	61	
				目標値						
				実績値						
			目標値							
			実績値							
	成果指標設定の考え方	○交通事故に遭わず、また起こさなければ、①交通事故発生件数、②③交通事故による死傷者数は減少すると考えた。								
	成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。市内道路延長はR01年度より高速道路延長を含む。 ○①市内の交通事故発生件数(人身)、②市内の交通事故死亡者数、③市内の交通事故負傷者数は、桜川警察署資料(1月～12月)より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	市内の交通事故発生件数(人身)は、令和2年度44件から令和3年度51件となり、7件増加し、成果が低下した。 市内の交通事故死亡者数は、令和2年度0人、令和3年度1人となり、1件増加し、成果が低下した。 市内の交通事故負傷者数は、令和2年度52人から令和3年度61人となり、9人増加し、成果が低下した。 ・3つの成果水準で昨年度を下回ったが、交通事故が増加した要因はコロナウイルスによる不要不急の外出自粛後、移動人口が増加したためと考えられる。また、平成29年度からの経過をみると年々成果は向上しているが、前年度と比較すると全てで低下しており、「成果がかなり低下した」と評価した。		

2) 成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった
	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	市内の交通事故発生件数(人身)は、令和3年度の目標値120件に対し、51件と、69件減っており大幅に目標を達成している。 市内の交通事故死亡者数は、令和3年度の目標値0人に対し、1人となり、目標を達成できていない。 市内の交通事故負傷者数は、令和3年度の目標値145人に対し、61人と、84人減っており大幅に目標を達成している。 ・上記のことから、成果目標の達成状況として、「一部の成果指標で目標値を上回った」と評価した。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
令和3年度は、「交通安全施設整備事業」を中心に事業を実施した。交通安全施設整備事業においては、交通安全の確保の観点から、区画線、カーブミラー、ポストコーン等の設置を行った。	道路交通の安全確保のため、区の要望や市道改善を継続して行うことは必要である。 令和3年度に死亡事故が発生しているため、引き続き、交通死亡事故が発生しないよう警察、交通安全関係団体と連携を図り、各世代に合わせた交通安全教室や街頭キャンペーン等を実施し、市民の交通安全に対する意識が向上するように啓発活動を実施する。 今後は高齢化社会が進んでいくので、免許の自主返納の推進等で高齢者の事故をいかに減少できるかが課題となる。